

6 その他全般的事項

<表象文化学部>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 施設、設備等の整備計画 図書館の資料及び図書館の整備計画 本学の学生閲覧室等の状況は、座席数を今出川キャンパス180席、京田辺キャンパス570席を整備している、また、2008年度中に今出川キャンパスの図書館の改修工事を行う予定であり、学生閲覧室等の座席数は194席となる予定である。</p> <p>② 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合 海外研修制度 2008年度は、次のとおりイギリス、カナダ、ニュージーランド、及び中国の各プログラムを、夏期または秋学期定期試験終了後の休暇期間中に3週間～4週間の日程で行う。</p> <p>③ 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合 日本語指導実習 日本語日本文学科では、「日本語」、「日本文学」と共に「日本語教育」を一つの柱としている。現在、国内外に複数の教育機関と提携をし、日本語日本文学科科目『日本語指導A・B』の実習先として、学外での20時間を越える日本語指導実践の機会を設けている。 海外における実習プログラムは、次のとおりである。 1) ソウル女子大学日本語指導実習プログラム【韓国】 2) 国立政治大学日本語指導実習プログラム【台湾】 3) T J F L (Teaching Japanese as a Foreign Language) プログラム【オーストラリア】</p>	<p>① 2008年度に今出川キャンパスの図書館の改修工事を行った結果、学生閲覧室等の座席数は改修工事前の180席より223席に増加しており（2011年5月現在）、届出時の計画の194席から29席増加している。</p> <p>② 海外研修制度については、2009年度よりアメリカプログラムを追加した。アメリカプログラムについては、従来より実施されていたが、届出時の計画段階では、学生の安全確保を含め、プログラム内容に見直しを検討していたため計画中であった。</p> <p>③ 従来、主に日本語日本文学科学生を対象としていた日本語指導実習プログラムであるが、副専攻制度により英語英文学科学生の履修が増加されることに鑑み、新たにニュージーランドプログラムおよびスィーパトゥム大学日本語指導実習プログラムを増設した。 概略については、以下のとおり。 (プログラム1)～(3)については認可時の計画に記載)</p> <p>4) ニュージーランド日本語教育実習プログラム ウェリントンにおいて、第1週目は語学学校にて英語研修、第2週目は事前日本語教師養成講座、第3週目は小・中・高等学校での日本語教師アシスタント実習、第4週目は小・中・高等学校での日本語教育実習を行うプログラム。期間は2月下旬から3月下旬。日本語日本文学科科目『日本語指導A』(他学科生履修可)の実習プログラムとしても位置づけられており、所定の条件を満たした場合は、2単位付与される。</p> <p>5) スィーパトゥム大学日本語指導実習プログラム【タイ】 バンコクのスィーパトゥム大学において、日本語授業の見学、日本語指導実習を行うプログラム。期間は8月中旬から9月中旬。日本語日本文学科科目『日本語指導B』(他学科生履修可)の実習プログラムとしても位置づけられており、参加学年を含め所定の条件を満たした場合は、2単位が付与される。</p>

(注) 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD活動を強化・推進するための組織として教育開発推進センターを2006年度に設置し、2008年度より学術研究推進センターと統合され、教育・研究推進センターとなった。センター所長を中心とした各学部の主任から構成される教育・研究推進センター主任会を設置し、教員の教育・研究活動の活性化およびFD事業の推進に取り組んでいる。

※「同志社女子大学教育・研究推進センター規程」参照。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

教育・研究推進センター主任会として、月1回定例開催を行っている。

c 委員会の審議事項等

全学のFD事業の推進および支援

教育方法・開発に関わる研究会等への支援

授業アンケートの実施と集計結果等フィードバックについての検討

FD関係図書・資料等の収集、整理、閲覧

大学院教育の改善、FDの内容について

FD事業概要をHPに掲載

FD関係広報誌の発行

成績平均点比較資料の配布

授業評価報告書の作成・公表

成績評価基準の検討

教員相互による授業参観

初年次教育の充実

新任教員に対するFD研修

本学教員の教育活動に関わる調査報告について

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

1. 教育活動報告書の発行
2. 授業アンケートの実施、評価結果のフィードバック
3. 授業評価報告の公開
4. 新任教員FDガイドの実施
5. FD啓発関係事業の推進
6. 研究会の支援
GPA検討会（報告書作成後閉会）
7. 成績平均点比較資料の配布
8. 初年次教育の充実
9. FD講習会の開催
10. 教員による授業参観
11. FD-YG会の開催

b 実施方法

1. 教育活動報告書の発行
 - ・専任教員個々の教育活動をもとに、年1回「教員研究・教育活動等報告書」として発行し、学内外に公表。
図書館で閲覧可能。
2. 授業アンケートの実施、評価結果のフィードバック
 - ・「学生による授業評価」として授業アンケートを年2回実施（春・秋学期）
 - ・担当教員並びに科目区分代表者（学部学科、教務部）へのフィードバックとして、授業アンケート実施結果および同一科目区分の学生評価平均値、大学全体の学生評価平均値データをフィードバック。
 - ・「授業の改善状況把握」として、教員個人の授業アンケート実施結果を蓄積・管理。

3. 授業評価報告の公開
 - ・授業アンケート実施結果に対して、科目担当および科目区分代表者ごとの評価コメントを付して、図書館にて公開。
 - ・提出された評価コメントは学部・学科および教務部にフィードバックして科目区分単位のFDに活用。
4. 新任教員FDガイダンスの実施
 - ・本学FD事業に関するガイダンスを、入社前オリエンテーションの中で実施。
 - 2009年度より「教育・研究活動支援ハンドブック」を作成し、配布。
5. FD啓発関係事業の推進
 - ・学外で開催されるFD講習会等を学部学科、関係教員に案内。
 - ・FD事業内容をHP上で情報公開。
 - ・FD啓発誌「FDレポート」(旧FDフォーラム)の発行(年1回)
 - ・FD関係図書・資料等の収集。HP上で資料リストを公開、教職員への貸し出し。
 - ・メールマガジン「同窓FDニュース」の配信(月1回)
6. 研究会等の支援
 - ・GPA検討会(報告書作成後閉会)
7. 成績平均点比較資料の配布(2007年度実施、2008年度不実施、2009年度実施)
 - ・各教員に「教員別担当科目平均点分布・合格率」を配布。また、科目区分責任者(教務部長、学部長、学科主任)に、各科目区分毎の「科目別クラス別平均点分布・合格率」を送付。
8. 初年次教育の充実
 - ・第6回FD-YG(FDについてわいわいがやがや話し合う)会にて、初年次教育について報告。
9. FD講習会の開催
 - ・年1回実施。
10. 教員による授業参観
 - ・授業改善を目的として、一部の授業を公開して教員が自由に参加できる授業参観を実施。
11. FD-YG会の開催
 - ・FD-YG(FDについてわいわいがやがや話し合う)会を年2回、各キャンパスにて開催。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

2. 授業アンケートの実施、評価結果のフィードバック

春学期

2009(平成21)年度 実施件数 859クラス
2010(平成22)年度 実施件数 845クラス

秋学期

2009(平成21)年度 実施件数 812クラス
2010(平成22)年度 実施件数 805クラス

6. 研究会等の支援

GPA検討会(報告書作成後閉会)

2009年8月より計2回開催。検討結果について答申を作成して、学長へ報告を行った。

9. FD講習会の開催

2009年度については下記の通り実施した。※ 講習会終了後に情報交換会実施

- ・日 時 2009年9月16日(水)
- ・テーマ 「学士課程教育の構築とFDの意義」
- ・講 師 川嶋太津夫 神戸大学 大学教育推進機構 教授
- ・参加者数 約70名

2010年度については下記の通り実施した。※ 講習会終了後に情報交換会実施

- ・日 時 2010年9月15日（水）
- ・テーマ 「大学教育の挑戦－学生の主体性を育むための授業の工夫－」
- ・講 師 杉原 真晃（山形大学基盤教育院／高等教育研究企画センター准教授）
- ・参加者数 約65名

10. 教員による授業参観

2009年度については、下記の通り実施した。

- ・実施時期 2009年12月
- ・実施対象クラス 5クラス
- ・参観者数 各クラス 約6名

2010年度については、下記の通り実施した。

- ・実施時期 2010年11月～12月
- ・実施対象クラス 5クラス
- ・参観者数 各クラス 約7名

11. FD-YG会の開催

2009年度については、下記の通り実施した。

第3回FD-YG会（京田辺校地）

- ・日 時 2009年11月4日（水）
- ・テーマ 「授業中の私語への対応、ゼミのあり方」
- ・参加者数 約10名

第4回FD-YG会（今出川校地）

- ・日 時 2010年2月19日（金）
- ・テーマ 「授業内容の工夫・改善にむけた取組みの実践と課題」
- ・参加者数 約15名

2010年度については、下記の通り実施した。

第5回FD-YG会（京田辺校地）

- ・日 時 2010年6月16日（水）
- ・テーマ 「同志社女子大学におけるGPA制度の導入経緯と検証」
- ・参加者数 約30名

第6回FD-YG会（今出川校地）

- ・日 時 2011年2月17日（木）
- ・テーマ 「初年次教育の取組について」
- ・参加者数 約15名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・教育活動、授業評価の公表等のFD啓発事業により、各教員にFDに対する意識が浸透している。
- ・成績平均点比較資料の配布等により、各教員の成績評価基準についての意識が浸透し、その結果がシラバスに反映されている。
- ・各教員がFDを意識し、授業方針・内容を工夫することで、授業についての学生の満足度は向上している。

(注) ①a 委員会の設置状況には、関係規程等を転載又は添付すること。

②実施状況には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成24年3月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（平成24年3月）
- ・「同志社女子大学自己点検・評価報告書」を平成24年4月に刊行予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・2007（平成19）年度に（財）大学基準協会の大学評価ならびに認証評価を受け、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2015（平成27）年3月31日までとする。」との通知を受領した。認定期間の2014（平成26）年度までに次回の認証評価を受ける計画である。

同志社女子大学表象文化学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学学芸学部英語英文学科および日本語日本文学科が、伝統的に培ってきた語学・文学・コミュニケーション教育を継承しながらも、文化に対する新しい視座を導入した教育を新たに展開することを目的として表象文化学部を今出川キャンパスに設置した。表象文化学部では、言語を伝達の手段として学び、また言語あるいは文学作品そのものの理解を深めるといった学習とともに、言語や文学作品を通して、時代ごとに表出された文化の特色的理解をはかり、現代における文化的諸問題に柔軟に対応し、社会に積極的に貢献できる力を持った女性の育成を目指している。

本学部は、従来、京田辺キャンパスにて展開していた学芸学部から英語英文学科と日本語日本文学科を切り出し、新たに今出川キャンパスに設置することにより、両学科の一体性をはかり、キャンパスの立地を活かした特色ある学部として設置された。具体的には、両学科をまたがる「学部共通科目」として、表象文化論に直接関わる科目の「文学と表象 A・B」「文化と表象 A・B」「舞台芸術文化論」を設置し、1科目を選択必修としている。また、両学科の一体性をはかる取組として、双方の学生が他学科の科目を体系的に履修することによって、日本語教育副専攻および英語教育副専攻の修了証を得ることができる副専攻制度を導入している。一方、本学部が京都市内に設置されることの立地条件を積極的に生かそうとする試みとして、京都をテーマにする科目群「京都研究」を両学科から提供される科目により設置した。

このような設置の趣旨および特色を理解し、本学部の目的を共有する学生を受け入れるため、初年度より、一般入試（前期・後期）をはじめ、AO方式入学者選抜、各種推薦入試、大学入試センター試験利用入試、帰国生入試、外国人留学生入試および社会人入試を実施した結果、合計 294 名（英語英文学科 164 名、日本語日本文学科 130 名）の入学者によりスタートした。2010 年度および 2011 年度入学試験においても初年度同様の入試を行い、入学者数は、2010 年度は合計 314 名（英語英文学科 179 名、日本語日本文学科 135 名）、2011 年度は合計 326 名（英語英文学科 183 名、日本語日本文学科 143 名）であり、順調に入学者を確保している。

表象文化学部英語英文学科では、各授業クラスの進行をスムーズに行い、確実な英語力を身につけることを目的とした習熟度別クラスにて実施する科目があるため、入学式直後に Reading・Listening のプレースメントテストを実施しクラス分けを行っている。その他、アドバイザー別の懇談会や、履修登録説明会なども行い、大学生活への導入的な役割を果たしている。2 年次、3 年次では英語能力の高い学生が、より高いグレードの環境で学べるための AES (Accelerated English Studies) コースがあり、ネイティブ・スピーカー教員を中心に組まれたティーチングスタッフにより、大学生として最高レベルの英語能力の育成を目標とした授業を展開している。2 年次からは、ゼミナール授業の基礎的知識と研究法の習得のため「Introductory Seminar」を設置し、3 年次、4 年次の文学、文化、言語、コミュニケーションの 4 分野に分かれるゼミナールへの継続を図っている。なお、3 年次、4 年次のゼミナールは定員を 20 名以下とし、きめ細やかな指導を行っている。

表象文化学部日本語日本文学科では、大学生活にスムーズに馴染み、親睦をはかること

を目的として、入学式直後に 1 泊 2 日の学外オリエンテーションを実施している。初年度より、京都北山の然林房にて実施し、クラス別レクリエーションやアドバイザーとの懇談、履修相談などを行っている。また、2 日目には京都の立地と学科の特性を生かし、文学散策と称し大覚寺を訪れ、写メール短歌大会を実施し、アカデミックな要素を兼ね備えたレクリエーションを実施した。全学生から満足であったとのアンケート結果を得ている。ゼミナール科目として、近代文学、古典、日本語学、日本語教育の 4 領域に分かれた「基礎演習」が 2 年次にあり、3 年次からは「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」が始まり、4 年次の「卒業研究」への継承を順調にはかるべく少人数によるきめ細やかな指導を行っている。また、「視野を広げる学び」として設置した「表象と表現」科目群は、卒業後の進路選択を意識した 3 年次生の多くが履修をしており、就職をはじめとする卒業後の進路選択に対する学生の意識の高さがうかがわれる。

以上のとおり、本学部の設置の趣旨・目的は、現在のところ適正に達成している。